



「秋が終われば冬がくるほんとうに早いわ」っと。いやー、前回のニュースレターはいつでしたっけねえ、はっ、はっ、は……。今は昔、9月19日・20日に「KKR片瀬・ニュー向洋」にて今年度の合宿が行われました。その報告を取出理事に、初参加の感想を徳田昌子さんに寄稿していただきました。行った人はそこで学んだことを思い出して、行けなかった人は以下のレポートを今後のディベートの糧にして下さい。



### 98年JBDF合宿報告

取出恭彦

今年のJBDF合宿（今回の合宿の際配られた10年誌によれば今年の合宿が第14回になる様である。）も無事終了した。

こういう勉強会としての合宿を毎年欠かさず続けて14回目を数える、というのもたいしたものだ、と思う。

さて、今年の合宿は合計17名参加と盛況であった。初参加の方も何人もいて、大変意欲的に取り組んでいただけたのはうれしい限りである。

1日めは英語でのパーラメンタリーディベート。

まず、山口さんの講義から始まった。

パーラでは相手の立論の最中に質疑が許されているが、その際、質問者は片手を頭にのせて、Point of Information といって立ち上がる事になっている。なぜ頭に片手をのせるかというと、どうやらイギリスでの国会質疑の際、かつらが落ちないようにおさえた習慣が由来らしい、という話があり、ひとつ利口になった。このPoint of Informationは宴会の際の自己紹介の場でも大いに活用された。

パーラは2人あるいは3人のチームを合計9チーム作り、1チームが肯定側、否定側、ジャッジをそれぞれ1回ずつおこなった。論題は、1. スポーツでの薬物の使用を認めるべき、2. 住むのには都会より、田舎の方がよい。3. 日本は首相公選制を採用すべし、という3つをおこなった。論題が与えられてからの準備時間は15分程度でその間に、主張をまとめるのは大変だったが、特に1や3の様な政策論題では肯定側がしっかりと論題の定義やプランの提示をしないと、そのあとのお互いの議論がうまくかみあわなかったり、論点があいまいなままになってしまう危険性があると感じた。2の様な価値に関する論題は、我々の通常の例会ではやってないので、どんなふうに話を展開するとおもしろいディベートになるのか、私自身今一つ分かっていないので、今後もう少し研究してみたいと思った。個人的にはリサーチによるエビデンスのないディベートというのはちょっと物足りない気はするが、与えられた短い時間の内に、主張をまとめて、スピーチをする、というのは社会人に求められる重要な能力の一つであると思われ、そういう意味ではパーラをやることは我々にとって非常によい訓練だと思う。今後、JBDFでもワークショップと組み合わせて、定期的にやっていくのもよいと思う。

2日めは日本語でのディベート。論題は「日本は首相公選制を採用すべし。」で、幹事の里村さんに用意していただいた資料を参考にしてディベートをおこなった。チーム分けは前日に発表になり、2日めの朝は多くの人が2日酔いでぼーっとしているなか、渡辺起里さん、塩島さん、加藤宏さんチームは早朝から準備にとりかかっており、気合がはいっていた。ディベートは1日めと同様、各チーム肯定側、否定側、ジャッジを1回ずつおこなった。会議室を真ん中で仕切り、3チームずつに分かれておこなったが、となりのグループの熱弁が聞こえてきて思わず苦笑する場面もあった。（特に渡辺さん（夫）のスピーチはすごい迫力！！）

さて、どの試合も白熱し議論が展開される良い試合ばかりだったが、一つの例として我々チーム（取出、尾崎、高尾）がジャッジをした試合を簡単に報告したい。

**肯定側：**瀬能、佐藤、川俣

**否定側：**加藤亨、花井、里村

（チームのメンバーにもしかしたら記憶違いがあるかもしれません。）

肯定側、否定側の立論は以下の通り

**肯定側立論**（瀬能さん）

**プラン**：首相を公選で選出する。首相候補は国會議員である事。過半数の信任で選出（過半数に満たない場合は決戦投票）。任期は4年。国会の3分の2の賛成で弾劾できる。

**メリット1 民主主義の達成**

（国民の意見をよりよく反映させる事ができる）

**メリット2 国民の政治意識の向上。**

**メリット3 適切な政策を断行できる。**

（国民の過半数の支持を背景）

**否定側立論**（加藤さん）

**不利益1** 政治が混迷する。（首相と議会が対立するようなケースが起きがちでその為に、政治が混乱する。）

**不利益2** 首相選びが人気投票的になってしまい口先だけの人や独裁的な人が選ばれてしまう危険性がある。

**カウンタープラン** 衆議院のみの1院制を採用する。

これにより肯定側が主張する3つのメリットはよりよく達成される。

肯定側のプランで首相候補を国会議員とする事、過半数の信任で選出する、という条件を設けたのは、否定側の攻撃を想定した対策で、うまい案だとおもつた。

否定側はカウンタープランを用意して、びっくりさせられた。衆院のみの1院制というカウンタープランは肯定側プランといわゆる *mutually exclusive* でない（両プランを同時にとる事が可能）ため、なかなか有効なカウンターにするのは難しい感じだった。

勝敗の判定ではやはり、否定側が提示した不利益

## 江ノ島の青い海とディベートと...

真っ青な江ノ島の海とJ B D F の皆様に感謝！！  
感謝！

お世辞でなく本当にJ B D Fの皆様には感謝しています。もし最初からこういう合宿だとわかつていたら私は絶対に参加していませんから、恥もかかなかつたかわり面白さも感じなかつたでしょう。その感謝の気持ちがこの文を書かせました。

今日は江ノ島で合宿だっ！と無邪気なおばさんは前の晩すやすや。ゴーゴーと眠りにつきました。当日、何がおきるかちっともわかっていないおばさんは江ノ島の海の青さに感激しながら“ニュー向洋”に着きました。でもちょっと気になっていたので、隣に座っていた方に言いました。「頂いた資料ぜんぜん読んでないんです」その方はにこやかにおっしゃいました。「僕もですよ」とするとその横の方もおっしゃいました。「私も！」またもや無邪気なおばさんはすっかり安心してしまったのです。そして13時。天国から地獄にまっさかさま。「英語でディベート？！」まさに聞いてないよっ！です。日本語ディベートだと勝手に思い込んでいたのです。その時一瞬私の頭は高速度で回転しました。帰りたいっ！でもそんなことできないっ！じゃあ、一番人に迷惑をかけない方法は？立論だ！でも私は肯定側だったので。ですから最初にしゃべるのでした。英語ディベートを見た事がないのですから最初の言葉からわからない。あいさつをするのか、いきなり立論を話すのか。それなら知りません。そして審判の方の英語の流暢さ、そして英語ディベート慣れしている話し方。ど肝を抜かれたおばさんは否定側の立論を聞いて又びっくり。審判の方に負けず劣らずの流暢さです。その他の方も全員とうとうと述べます。それから先の事は皆様のご想像通りです。ほうほうのていで夕方になり、ああ明日はやっとほんごだとほつとした無邪気なおばさんは又又地獄を見るのです。夜中1時過ぎ迄飲んでいたという方が翌朝7時からミーティングをしたり、頂いた資料を切り貼りしていらっしゃるのです。ああ、あれだけとうとうとお話しされる裏にはこの様な念入りな準備がある

が生き残っているがどうかポイントになると思われたが、今回の様に双方とも準備に時間をかけた訳では無いケースでは決定打となる様なエビデンスが無く、判定が難しいというのが正直なところだろう。

このディベートでは初めて参加の花井さんの力のこもったスピーチが非常に印象的だった。

ということで、皆さん、お疲れ様でした。また幹事の里村さん、いろいろとどうもありがとうございました。この合宿でデビューされた方々にはこれからのご活躍を期待します。

以上

德田昌子

のだとやっとおばさんは悟ったのです。でもラッキーな事に私は立論を同じテーマでの3回戦の3回目にすればいいのでした。つまり前の2チームの立論を聞いて勉強することができたのです。それで少し心の余裕ができたのでしょう。よろよろした言い方ですが、とりあえずは「結論・・・ですっ！」と言い切る事ができたのです。確か2回位でしたが、その気持ちの良い事。日常、突っ込まれた時の逃げに「・・・の様です」とか「・・・だと思います」という話し方に慣れている私にとって言い切ってしまう、という事の潔さ。自信を持ってこれだ、という言い方ができる気持ちよさ。そしてこのJ B D Fの方々のレベルの高さ。それはディベート以前の教養や品位の高さを指しているのですがとりあえずこの旅行は私にとってラッキー！の一言。

そして最後に又言わせてください。皆様本当にありがとうございました。そして本当にご迷惑をおかけしました。以上

みなさん、楽しい思い出が作れたようでよかったです。幹事の里村さんごくろうさまでした。

今年、行けなかった方は是非来年参加してください。

今後の予定

■ 12月例会

日 時：12月18日（金）19：00～

## 内 容：英語ディベートおよび総会、

年間最優秀ディベーター表彰式&忘年会

場 所：新橋福社会館

■ 1月例会

日 時：1月22日（金）19：00～

(第3週(15日)は祝日のため第4週になりました。)

## 内 容：日本語ディベート

場 所：新橋福祉会館

